

<日本遺産 構成文化財マップ>



明和町マスコットキャラクター
めいわ姫
© MEIWA town office.



- ① 齋宮跡
- ② 齋宮跡出土品
(齋宮歴史博物館)
- ③ 齋王の森
- ④ 竹神社 (野々宮)
- ⑤ 祓川
- ⑥ 竹川の花園
- ⑦ 隆子女王の墓

- ⑧ 齋王尾野湊御禊場跡
- ⑨ 大淀
- ⑩ 業平松
- ⑪ 佐々夫江行宮跡
- ⑫ カケチカラ発祥の地

ACCESS 明和町へのアクセス

車でおこしの場合

★カーナビに利用の方は、下記住所をこ入力ください
齋宮歴史博物館 / 三重県多賀郡明和町大字竹川503 TEL.0596-52-3800
いづきのみや歴史体験館 / 三重県多賀郡明和町大字齋宮3046-25 TEL.0596-52-3890

電車でこしの場合

新幹線 近鉄特急
東京 約100分 名古屋 約70分

近鉄特急
近鉄特急 約110分

近鉄特急
大原 約90分

<発行>: 明和町 齋宮跡・文化観光課 (明和町大字馬之上 945 番地)
電話: 0596-52-7126 FAX: 0596-52-7133
E-mail: saikuuato@town.mie-meiwatsumi.jp



JAPAN HERITAGE
日本遺産

日本遺産

「祈る皇女

齋王のみやこ 齋宮」



<認定ストーリー要約>



齋王まつり実行委員会提供

古代から中世にわたり、天皇に代わって伊勢神宮の天照大神に仕えた「齋王」は、皇女として生まれながら、都から離れた伊勢の地で、人と神との架け橋として、国の平安と繁栄を願い、神への祈りを捧げる日々を送った。

齋王の宮殿である齋宮は、伊勢神宮領の入口に位置し、都さながらの雅な暮らしが営まれていたと言われている。地元の人々によって神聖な土地として守り続けられてきた齋宮跡一帯は、日本で齋宮が存在した唯一の場所として、皇女の祈りの精神を今日に伝えている。

<日本遺産とは…>

文化庁が新たに創設した制度「日本遺産」に、明和町が申請した「祈る皇女齋王のみやこ 齋宮」が平成 27 年 4 月 24 日に認定されました。

日本遺産とは、地域の歴史的な魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを認定するとともに、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に発信することにより、地域の活性化を図る制度です。



よみがえった平安の建物

史跡公園さいくう平安の社

<日本遺産の構成文化財>



齋王の森

齋王の宮殿があったと語り継がれ、齋宮のシンボリックな森として地元の人々により守られてきた。



齋宮跡出土品(国重文)

出土品 2,661 点が指定されている。蹄脚硯や緑釉陶器、和鏡、羊形硯の出土により、これまで文献や地名からしか推定されていなかった齋宮の存在が現実的なものとなった。これらの出土品により齋宮では、神に仕える神聖かつ慎ましやかな生活と都さながらの雅やかな生活とが交錯する日々であったことが読み取れる。



齋宮跡

天皇に代わり伊勢神宮に仕えた皇女・齋王の宮殿と齋宮寮と呼ばれた役所の跡。古代から中世にかけて660年間続いた。齋宮での齋王の暮らしは、神への祈りをささげる日々を送るとともに都さながらの雅やかな生活を送っていた。



カケチカラ発祥の地

齋王・倭姫命と真名鶴伝説が由来。神嘗祭に初穂の稲束を伊勢神宮の内玉垣に懸け、国の永遠の繁栄を祈る懸税(カケチカラ)行事の発祥の地。



ささふえあんぐうあと 佐々夫江行宮跡

伝説の初代齋王・豊鍬入姫命の後継を継ぎ、天照大神の御杖代として各地を巡幸した倭姫命が、伊勢の地に入られ、大淀に御船をとどめて造った宮跡。



業平松

齋王が伊勢に来た在原業平をこの松の下で見送り、別れを惜しみ、歌を詠み交わしたという物語に因んで業平松と呼ぶ。現在3代目齋王のはかない恋物語の舞台となった風景が思い起こされる。



竹神社(野々宮)

齋王の宮殿があった神聖な場所が人々の信仰の場(神社)として受け継がれ、現在も祈りの空間を感じられる。



祓川

祓川は、聖なる神領の入口に流れる川。齋王の齋宮への旅立ちには、200人余りの官人、女官等を連れて5泊6日かけて群行する。齋王にとっては、神に近づく禊祓の旅でもあり、この川で最後の禊を行って齋宮に赴任した。



竹川の花園

『源氏物語』の竹河の段の歌に登場し、伝承では、ここに四季の花が植えられていたとされ、齋王も花園に来て花を楽しんでいた景勝地。



隆子女王の墓

齋宮で亡くなった齋王、隆子女王の墓。隆子女王は醍醐天皇の孫女。宮内庁が管理を行い、清楚な雰囲気漂う。



大淀

倭姫命が天照大神の鎮座場所を探し求め、この地にたどり着き命名。古代の多くの歌に「枕詞」として使われた景勝地。



さいおうのおのみなとおんみそぎばあと 齋王尾野湊御禊場跡

尾野湊とは大淀海岸の古名。齋王が毎年9月に伊勢神宮で行われる「神嘗祭」に奉仕するため、8月晦日、禊を行って身を清めた場所といわれている。